

会館だより



2013年 10月号

No. 292

 公益財団法人 日中友好会館



目次

行事案内

《日中友好後楽会》

- ・ 秋季ハイキング
- ・ 会員総会（もみじの会）

《日中友好会館美術館》

- ・ 第23回中国文化之日公演「京劇の小スター 中国小梅花公演団 来日公演」
- ・ 第23回中国文化之日
「中国を彩ったポスター展
～中国で開催された各国公演・展覧会ポスターを中心に～」

活動記録

- ・ 後楽会(中国)友好聯誼会が
山西省の小学校への援助を計画
- ・ 後楽寮 2013年スポーツ大会
- ・ 「JENESYS2.0」中国高校生訪日団(科学技術交流)が来日
- ・ 加須市ホームステイ体験記

コラム

- ・ 理事長のツイッター

会館行事と人の動き

表紙

「京劇の稽古風景」

(2013年 10/18～20 開催)

第23回中国文化之日公演「京劇の小スター 中国小梅花公演団来日公演」より)

※詳しくは本誌P.3をご覧ください。



● 行事案内 ●

日中友好後楽会

◆ 秋季ハイキング

味覚の秋!!食欲の秋!!がやってまいりました。なだらかな丘陵地帯にある津久井浜観光農園は、みかん狩りには最適な場所。後楽寮生とともに新鮮でもぎたてのみかんを、たっぷりご堪能ください。

また、午後は新横浜ラーメン博物館やカップヌードルミュージアムを訪問し、ご当地ラーメンを食べたり、カップヌードルの歴史を学ぶとともに、オリジナルのカップヌードル作り体験を予定しています。

お申込みの方には、改めて詳しくご案内申し上げます。

日 時：10月28日(月)
朝 8:00、飯田橋 後楽賓館前
出発予定

行 先：津久井浜観光農園、ラーメン博物館、カップヌードルミュージアム
(神奈川県横浜、横須賀方面)

参加費：お一人12,000円
(バス、昼食、入場料込み)



◆ 会員総会 (もみじの会)

日 時：11月29日(金)
17:30より(受付17:00~)

会 場：小石川後楽園
涵徳亭(かんとくてい)

参加費：会員 3,000円/人、
非会員 4,000円/人

今年も小石川後楽園内にて後楽会会員総会(別名:もみじの会)を開催します。紅葉を愛でながら会員同士の懇親が深まればと思います。小石川後楽園は、入園最終時間が16:30(17:00閉園)となっておりますので、紅葉をご覧になる方はお早めにご入園ください。(入園には別途入園料がかかります)



※11月は中国旅行と会員総会がありますので、11月の定例談話会はお休みいたします。

【お申込み・お問合せ】

後楽会事務局 小林、大竹、緒方

電話：03-3811-5305

FAX：03-3811-5263

メールアドレス: kourakukai@jfc.or.jp

第23回中国文化之日

「京劇の小スター 中国小梅花公演団 来日公演」



三岔口（さんちやこう）

日時：10月18日（金）19:00～

19日（土）13:30～／18:30～

20日（日）13:30～

全4公演（30分前に開場、上演時間は1時間程度）

会場：日中友好会館地下1階大ホール

入場券：前売り1,000円/枚 全席指定（空席があれば当日券¥1,200円を販売）

会館事務局（平日9時～17時）または

「e+イープラス」<http://eplus.jp>（PC／携帯共通）にて好評販売中。

ファミリーマートでもチケットを購入できます。

※後楽会会員は優待席を別途ご案内いたします。

主催：公益財団法人日中友好会館、中国戯劇家協会

協力：北京戯曲芸術職業学院

後援：中華人民共和国駐日本国大使館、(公社)日中友好協会、日本国際貿易促進協会

(一財)日本中国文化交流協会、日中友好議員連盟、(一財)日中経済協会、

(社)日中協会、日本華僑華人聯合総会

当会館が毎年秋に行っている「中国文化之日」は、今年で23回目を迎えます。

本年の公演は中国小梅花公演団（北京戯曲芸術職業学院の学生）が来日し、弱冠11～14歳の少年少女たちが伝統劇の公演を行います。

京劇は200年の歴史を持つ中国の伝統芸能で、唱（歌）、念（せりふ）、做（しぐさ）、打（立ち回り）によって物語を表現する総合的な舞台芸術です。厳しい訓練によって、これら全てを磨き上げた良い京劇役者は“文武双全”（文武ともによくできる）と言われます。

今回の公演では、基本技の稽古風景の実演や、京劇の伝統演目「三岔口」、「霸王別姫」、「鬧天宮」を披露します。また、華北および東北部で盛んに演じられている地方劇の評劇（ひょうげき）科の学生たちによる「花為媒」も上演します。

小梅花公演団の団員は、皆、「小梅花賞」（中国戯劇界において最も栄誉ある賞である「戯劇梅花賞」の子ども版）を受賞した、中国京劇界・評劇界の未来のスターたちです。彼らの一生懸命な熱演を間近でご覧ください。ご来場を心よりお待ちしております。

【お問合せ】

（公財）日中友好会館 文化事業部

電話：03-3811-5305（平日9時～17時）

e-mail: bunka@jcfc.or.jp



稽古風景



評劇「花為媒（ホアイメイ）」



～好評開催中～

主催展 第23回中国文化之日展覧会

「中国を彩ったポスター展
～中国で開催された各国公演・
展覧会ポスターを中心に～」

会期：好評開催中～10月20日(日)
水曜休館、入場無料

時間：10:00～17:00
(10/18、19は20:30まで開館、
10/20は16:00閉館)

会場：日中友好会館美術館

主催：公益財団法人日中友好会館
中国对外文化集团公司

運営：中国对外芸術展覧有限公司

後援：中国大使館、(公社)日中友好協会、日
本国際貿易促進協会、(一財)日本中
国文化交流協会、日中友好議員連盟、
(一財)日中経済協会、(社)日中協会、
日本華人華僑聯合總會

中国で行われた世界各国の舞台や音楽公
演・美術展及び、中国の団の国内外公演・美
術展のポスターを一挙公開！中国对外文化集
団会社が所蔵する1950年代から現代までの
ポスター約300点の中から、約70点を選びす
ぐり展示いたします。

1950年代の中国ではどこの国の公演が見ら
れていたか、市民に人気を博したコンサート
は？日本の公演もあるの？…ポスターひとつ
ひとつから、時代背景や当時の人々が楽しん
だ姿が浮かびあがります。

各国の色とりどりのデザインも見どころの
ひとつです。1950年代のキッシュで可愛いも
の、民族色の濃いもの、モダンなデザインのも
のなど、どなたでも分かりやすくお楽しみ
いただけます。



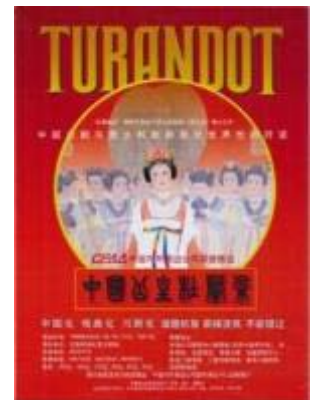
新中国写真展
(於：ブルガリア)1950年代



ソ連サーカス団
1950年代



中国艺术团海外公演
1950年代



中国版トゥーランドット
1998年



SMAP北京コンサート
2011年

【催事・チケットお問合せ】

(公財) 日中友好会館 文化事業部

電話：03-3811-5305 (平日9時～17時)

e-mail: bunka@jcfc.or.jp

● 活動記録 ●

◆ 後楽会(中国)友好聯誼会が 山西省の小学校に援助

後楽寮ではこれまで約4,000名の大学院生、客員研究員が留学生活を送りました。中国国内には後楽会(中国)友好聯誼会(正式名称は中国留日学人(後楽寮OB)友好聯誼会)という後楽寮生OB組織があります。後楽寮で過ごした中国人留学生達は自らの日本留学経験を活かし、日中の懸け橋や社会に寄与したいという強い思いを抱いています。

後楽会(中国)友好聯誼会成立以降は年1回の年次総会だけでしたが、この度、メンバーの一人である、天津医科大学の菅喜岐教授の提案により、後楽会(中国)友好聯誼会事務局が検討した結果、山西省河曲県の葛真龍聯校井湾子中心小学校への援助活動を行うことになりました。

活動の期間は9月7日から9月9日までの3日間。菅喜岐教授をはじめ、元留学生事業部長の周曉光氏ほか5名が現地を訪問し、主に学校で使用するものや生活用品、事務用品などの寄付を行いました。この活動を通してより良い学習環境のお手伝いができればと考えています。

後楽会(中国)友好聯誼会では今後もこのような活動などをはじめ、少しずつ社会貢献に役立っていきたいと思っています。

(後楽会(中国)友好聯誼会事務局)



◆ 後楽寮 2013 年スポーツ大会



お互いの健闘をたたえて

8月17日、後楽寮2013年度スポーツ大会が成功裏に行われた。

後楽寮寮生委員会は同留学生事業部の先生たちの指導の下、スポーツ大会開催の1ヶ月前から予め詳細を公表し、申込みを開始した。寮生たちの申込み人数に基づき、開催前日に抽選でグループ分けをし、審判の訓練を行うといった周到な準備作業をした。今回のスポーツ大会はビリヤード、男子卓球シングルス、女子卓球シングルスと卓球混合ダブルスの四つの項目からなっている。約60名の寮生が試合に参加し、70名以上の寮生が試合を見守って応援した。

午前9時45分、試合が始まり、すべての試合はリーグ戦方式で行われた。午前はグループリーグで、午後は準決勝と決勝戦である。暑い中、すべての選手は全身全霊で試合に臨んだ。緊張で楽しい雰囲気の中で試合が続き、笑い、拍手と応援の叫びは飛び交っていた。寮生たちの盛り上がりは会場の一人ひとりを感動させた。選手全員は「交流第一、試合第二」の旨を貫き、自分の実力と魅力をアピールして見せた。審判もルールを厳格に守り、プロに近いレベルで試合の公正と公平を実現した。

一日の激戦を経て、優勝5名、第二位5名、第三位10名が決まった。賞品は豊富で、すべての選手が賞品や記念品をもらった。

今回の大会の成功は中国駐日大使館教育処と日中友好会館留学生事業部の絶大なる支持によるものである。後楽寮寮生委員会は宣伝からルールの制定、コーチの訓練まで、行き届いた運営を遂げた。ボランティアたちは暑い中、水やお菓子の用意、器材の整理などをサポートした。寮生たちの積極的な参加はみんなの前向きな生活態度の表れだといえよう。

試合終了後、留学生事業部陳世華先生はすべての選手にお祝いの意を表し、寮生委員会、ボランティアと応援団に感謝の意を述べた。陳先生は緊張した研究生活の中で、寮生たちがストレスを解消し、完全な人格を培うため、これからも引き続き寮生たちに交流の場を提供していくことを語った。それによると、留学生事業部は今後スポーツ文化と音楽文化の建設をさらに強化し、後楽寮の文化生活を充実させることによって、新しい時代の中国人留学生の風貌をアピールしていく考えである。

今回の大会は日本のお盆の節にあたり、夏休み中に寮生たちに楽しい時間を提供しただけでなく、リラックスできた機会であり、コミュニケーションの場でもあった。大会は会場一同の拍手の中で無事終了した。

(後楽寮寮生委員会 丁敏、翻訳 何鵬举)

◆「JENESYS2.0」中国高校生訪日団 (科学技術交流)が来日 東京・山梨を訪問

7月30日から8月6日までの日程で、中国高校生訪日団(科学技術交流)(引率=李冬暉中国科学技術協会・青少年科学技術センター副研究員)5名が来日した。参加者は、日本語を学ぶ北京と上海の高校生で、外務省が実施する「JENESYS2.0」の一環として招聘した。

訪日団は、東京と山梨県を訪問し、第8回「創造性の育成塾」プログラムに参加し日本の学生と生活を共にしながら交流したほか、富士山見学、科学技術・アニメに関する視察や日本文化体験など「クールジャパン」をテーマにさまざまなプログラムに参加し、政治・経済・歴史・文化・社会に関する包括的な対日理解を深めた。



ノーベル化学賞受賞の
鈴木章 北海道大学名誉教授(右)に
中国高校生が質問

第8回「創造性の育成塾」 プログラムに参加

訪日団は、日本全国から選ばれた中学2年生40名と共に、山梨県富士吉田市で行われた「創造性の育成塾」夏合宿に参加した。

「創造性の育成塾」では、ノーベル賞受賞

者など日本の著名な科学者による講義を受け、科学実験を行った。団員は日本の最先端の科学技術を学ぶと同時に、講師の体験談から人間として成長するためのヒントを得たようだった。開塾式では、有馬朗人塾長が論語や漢詩を引用して講義を行った。日本語を学ぶ高校生達にとって、日本語漬けの4日間は語学のレベルアップにも大いに役立ったようで、日本の学生と友情を育むとともに、朝のラジオ体操や食前食後の挨拶などから日本の習慣を学ぶことができた。

合宿の最終日はフィールドワークで富士山5合目を散策し、昆虫やキノコなどさまざまな生物を観察した。途中、富士山を清掃するボランティアと出会い、中国の名勝旧跡にもこのような行為を伝えたいとの声が聞かれた。日本の中学生との別れの際に、連絡先を交換したり一緒に写真を撮ったりして名残惜しそうな様子がかがえた。

「クールジャパン」をテーマに視察

山梨では、富士山レーダードーム館とリニア見学センターを見学し、日本の誇る最先端の科学技術に触れた。団員は、リニアの仕組みや上海のリニアとの違いなど積極的に質問した。日本語を学ぶ理由として「日本食が好きだから」を挙げた団員もおり、河口湖畔の温泉旅館では、風味豊かな懐石料理にみな大満足の様子だった。

東京に移動して、杉並アニメーションミュージアムで日本アニメの歴史を学び、江戸東京博物館では江戸の町並みや人々の暮らしを紹介する展示などを熱心に見学した。また、中国から伝わり日本の風土になじんで発展した藍染めにも挑戦し、それぞれオリジナルの手ぬぐいやハンカチを作製した。

そのほか一行は、国会議事堂、皇居、浅草など政治・歴史に関する施設を見学するなど、

さまざまなプログラムを通して、クールジャパンを実感した。訪日研修の最後に、当公益財団を訪れて留学生寮を見学し、役員らに訪日の成果を報告した。団員からは「素晴らしい先生方の講義を受け、優秀な学生と交流することができ、得難い経験となった」「訪日前、日本人は融通が利かないと思っていたが、実際はそうではなく考え方も柔らかかった」など、今回の交流を通じて日本や日本人に対して新たな発見があったという声が多く聞かれた。



藍染め体験

本団の受け入れにご協力下さった関係機関・関係者の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

(総合交流部)

◆加須市ホームステイ体験記

2013年8月23日から8月25日まで、埼玉県加須市にホームステイに行きました。これは私にとって初めてのホームステイの経験です。朝8時50分に出発し、浅草駅を経由して午前11時ごろ加須市に着きました。東京から加須市はあまり遠くありませんが、生活環境は東京都内と全く違うと感じました。そこは、見渡す限り田園ばかりで、高いビルはあまり見えませんでした。田園に囲まれている、加須うどんが食べられるレストランで日中友好加須市民会議の方々とホームステイを受け入れてくれる家庭の方々が、私たちのために歓迎会を行ってくれました。そして、歓迎会は午後1時半ごろに終わって、渡良瀬遊水地に見学に行きました。

渡良瀬遊水地はラムサール条約に登録された有名な湿地です。レストランを出発し、バスでおよそ30分かかって渡良瀬遊水地に着きました。バスが堤防に沿って走ると、無限の緑の海のような光景が目の前に広がっていました。そして、ハートの形の谷中湖では魚が飛び上がったり、きれいな川のそばでは白鷺がのんびりと散歩していたり、まるで童話の世界に行き着いたようでした。しかし、この童話のような世界には歴史上すごく悲しい物語が隠されています。日中友好加須市民会議の会長である河野加代子さんは私たちにその物語を教えてくださいました。ここはそもそも豊かな土地で、谷中湖の周りで人々は代々稲を植えて生活していました。しかし、明治時代に湖に流れ込む川の上流にある銅山で銅が採掘され、重金属など毒物が湖に流れました。結局湖の水が有毒になって、周辺の土地も汚染されました。その水を飲んだり、その土地で植えた稲を食べたりすれば病気になって、中には亡くなった人々もいました。これが、有名な足尾鉍毒事件です。結局、そこに住ん

でいた人々は谷中湖を離れて、そこで生活する人は今でもいません。現在湖の底にはまだ毒物が沈んでいて、その水は利用できないままです。河野さんの解説を聞いて、胸の中に複雑な感情が湧いてきました。中国の農村で育てられた私は、子供時代の記憶が蘇って、人間と自然環境とがどのように付き合うといいのかについて深く考えました。

天気があいにく悪くなって、渡良瀬遊水地で少し留まって、すぐに離れました。それから、加須市の市役所に行って、市役所の施設、市議会の会議室などを見学しました。加須市の大橋市長と私たちは面会し、歓談しました。午後5時ごろ市役所で解散し、各自受け入れてもらった家庭に行きました。

私を受け入れてくれた家庭は木村さんの家庭です。お父さんとお母さんは70代ですが、お二人は元気で、60代に見えます。お父さんはお酒が好きで、お母さんは運動、特に山登りが大好きです。そして、家で洋ちゃんと呼ばれる可愛い犬を飼っています。お二人は中国のことが大好きで、30回以上中国に行っています。我々はお酒を飲んで、たくさんお話を聞きました。一番興味深かったのは外国人が中国で差別された話です。それは、5、6年前のことでした。その時お父さんは中国で中国人の友達と一緒にタクシーに乗りました。タクシーに乗る前に中国人の友達は日本語で絶対に話をしないで、外国人であることがわかると料金が高くなると何回も言いました。しかし、お父さんはタクシーでたばこを吸いたくて、「たばこを吸っていい？」と日本語で聞きました。その結果、日本人であることがわかってしまい、料金が上がりそうになってしまい、その事について友達はお父さんをからかったそうです。この話を聞いて、みんな大笑いしました。夜の食事は午後5時半から始まって、午後10時まで続きました。みんな

で話したり、笑ったり楽しく過ごしました。

24日は、全員で日光に見学に行きました。天気予報では天気が崩れるかもしれないと言っていたのでみんな心配しましたが、当日は涼しくて晴れていました。2時間ぐらいかけて、幻の日光に着きました。きれいな湖が山々に囲まれて、それはまるで天から落ちてきたかのようなようでした。緑を浴びて、楽器のような滝の水音を聞きながら、おいしい空気をいっぱい胸に吸い込んで、まるで天国に着いたかのようなようでした。昼の時、たった100円の大きい地元の大根をみんなで買ってから、湖のそばのレストランでおいしい料理を食べました。

午後は世界遺産の日光東照宮に見学に行きました。東照宮は日本に来てから見た一番立派な神社だと、私は思いました。神社前の五重塔の建設技術はスカイスリーで活用されたと聞いて、驚きました。そして神社の入口のすぐそばにある、「見ざる 言わざる 聞かざる」の三猿の話の彫刻はなかなか面白かったです。特に「猿」と「ざる」の使い方日本語の魅力をもう一度味わいました。そして、有名な眠り猫の彫刻を見に行きました。見る前は、あの有名な眠り猫は大きいに違いないものと思っていたので、思わず大きなものを探してしまい、小さい本物の眠り猫を見逃しました。一緒にいた友達に、「眠り猫はどこなの」と聞いて、「先ほど見てないの」と返事をされました。「しまった」と気づいて、すぐにみんなに笑われましたが、帰るとき、幸いにもその小さい猫を見ることができました。そんな小さい彫刻はなぜ有名なのかとインターネットで調べて、その本当の意味が分かって、日本の文化についてますます興味を深く持つようになりました。

25日は最終日です。午前11時頃、加須市のコミュニティーセンターで送別会が行われ

ました。みんな食事しながらお話ししたり、歌を歌ったり、日本の伝統的な演劇を見たり、楽しく過ごしました。中国人の留学生たちは「大海啊故郷」という歌を歌って、送別会は盛り上がりました。



加須のお父さんお母さんとの送別会

この二泊三日のホームステイはあっという間に終わりました。帰るとき、お父さんたちとお母さんたちは私たちを駅まで送ってくれました。泣くまでにはなりませんでしたが、みんな離れたくなくて、電車が来るまでの時間を一緒に過ごしました。たった3日間でしたが、みんな本当の家族のように仲良くなって、ちょっと不思議だなあと感じます。この経験によって、みんな日本の生活にもっと慣れて、日本の文化を深く理解できるようになったと思います。日本人の友達ができ、しかも一緒にホームステイに参加する寮生たちも仲良くなりました。出発する前はお互いに名前すら分かりませんでした。帰るときには、みんなで話をしたり、笑ったりしていました。そしてこれからは一緒に勉強したり、出かけたりしようと約束をしました。今回のホームステイは私にとっても、参加する寮生たちにとっても、とても有益で、一生忘れられない経験になったと思います。

(後楽寮生 王樹良)

● コ ラ ム ●



理事長のツイッター

(公財)日中友好会館 理事長 武田 勝年

本年8月23日(金)、後楽寮生16名、留学生事業部田辺奈津子部長代理と一緒に埼玉県加須(かぞ)市を訪問しました。感動と感謝の一日でした。加須市は、埼玉県の北辺に位置し、群馬県、栃木県、茨城県の三県に接しています。人口5万8千人、米作を中心とする農業の町。鯉のぼりの生産量は日本一。日中友好加須市民会議の会員のご家庭で、毎年中国留学生をホームステイに招いて頂くので、関係の皆様にお礼を申し上げようと思って訪問したものです。このホームステイ交流活動は、何と1982年に始まったもので今年は32回目、860名の中国留学生がご招待を受けているのです。



理事長より河野会長へ記念品の贈呈

昼食歓迎会の席上での河野加代子会長のご挨拶に感動しました。ご高齢にもかかわらず、よく通る声で「中国の正史で日本関係の最も古い記載が見られるのは魏志倭人伝ですが、両国民衆の往来は縄文時代からありました。私たちの多くは血縁関係にあります。皆さんは、私たちの息子、娘と同じです。」と中国と中国人に対する限りないそして揺るぎない親愛の気持ちを述べられました。

歴史の時間に、紀元前2-3世紀の弥生文化は大陸の影響を受けており、前漢時代に倭奴国王が光武帝から金印を授かったと教わった記憶があるが、この河野会長の新説(?)は、その真偽は別としてお気持ちがストレートに伝わる素晴らしいお話でした。日中間の交流活動に携わる一人として、会長のお話を真摯に受け止めて尚一層頑張らなければ!と気持ちを新たにしました。

夕刻には、大橋良一市長に中国留学生全員と親しく懇談して頂きました。市長との懇談が終わった後、ホームステイ受入家庭の方々が市庁舎まで来られましたが、その笑顔は「皆よく来たね。日本家庭の雰囲気を楽しんで下さいね。遠慮しないでね。」と語っている様に見えました。これだけでも感謝の気持ちで一杯です。後日、三日目の歓送会は、和気藹々と大いに盛り上がったと聞きました。日中友好加須市民会議の皆様、本当にありがとうございます。



会館行事と人の動き 8/1～31

● 会館行事

- 7/30～8/6 ▶「JENESYS2.0」中国高校生訪日団（科学技術交流）来日（8/5 同団歓送報告会）
- 8/1 ▶ 後楽会中国画教室
- 8/10～8/25 ▶「日中友好会館所蔵中国絵画展」藤沢巡回展（於：藤沢市民ギャラリー、8/10 同展開幕式）
- 8/17 ▶ 後楽寮スポーツ大会
- 8/23～8/25 ▶ 後楽寮生加須ホームステイ
- 8/27～9/1 ▶ 貸美術館催事「筆之友選抜書展」
- 8/27～9/3 ▶「JENESYS2.0」中国青年ボランティア代表団 来日（8/28 同団歓迎会）

● 来館・訪問・面会

- 8/2 ▶ 中国大使館 白剛公使参事官 面談（武田理事長、王中国代表理事）
- 8/8 ▶ 元後楽寮生 江蘇術陽科技産業園管委會 吳勁雷主任 来館（留学生事業部）
- 8/16 ▶ 元後楽寮生 金杜外国法事務弁護士事務所 陳天華代表 来館（留学生事業部）



2013年10月1日発行 第292号
発行 公益財団法人 **日中友好会館**
〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目5番3号
電話(03)3811-5317 FAX(03)3811-5263
<http://www.jcfc.or.jp/>